

# 1. 道路

## (1) 基本的な考え方

道路は、人や車を安心・安全に移動させる役割を担うとともに、市街地や里地の景観を移動しながら眺める視点の場として、また、市街地や里地の景観を構成する要素の一部として、重要な役割を果たしています。

特に、地形の改変を伴う新設道路については、構想段階から線形や位置について、機能面、安全面、経済面を検討するとともに、景観へ配慮することが重要です。

## (2) 景観形成の方針とチェック事項

### 構想段階

- ✓ チェック 1: 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか? (P15)
- ✓ チェック 2: 周辺の景観に対する影響を検討しているか? (P15)
- ✓ チェック 3: 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか? (P16)



### 設計・施工段階

方針① 周辺の景観に与える影響を抑えるため、地形の改変は最小限とする。

- ✓ チェック 1: 周囲からの見え方に配慮した道路計画を行っているか? (P17)

方針② 擁壁や法面は、周辺の景観に配慮し、圧迫感や違和感を与えないよう努める。

- ✓ チェック 1: 圧迫感や人工的な印象を軽減する手法を検討しているか? (P18)
- ✓ チェック 2: 表面処理や素材の選定について工夫しているか? (P19)

方針③ 市街地では、歩行者が魅力を感じられるよう工夫する。

- ✓ チェック 1: 歩行者空間は、ゆとりの確保やおもてなしの表情づくりに配慮しているか? (P20~21)
- ✓ チェック 2: 緑を魅力づくりに活かしているか? (P22~23)
- ✓ チェック 3: 道路付帯施設（道路付属物及び占用物）は、周辺の良好な景観や他の付帯施設との調和に配慮しているか? (P24~27)

方針④ 道路が良好な視点となる場合は、景観への影響を最小限に抑えるよう、道路構造物、占用工作物の配置、形態・意匠及び色彩を工夫する。

- ✓ チェック 1: 道路施設等は、視対象を見やすくするよう配慮しているか? (P28~29)

## 構想段階

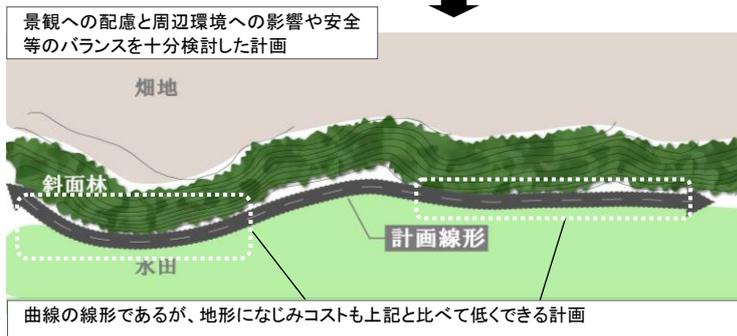
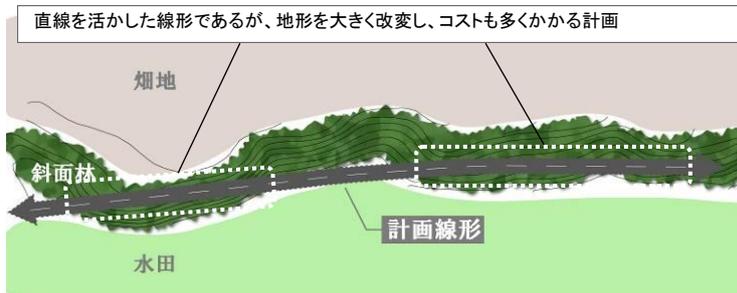
### ✓ チェック 1 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか？

- ① 現地を踏査し、周辺環境や地域特性の把握に努める。
- ② 計画の対象となる道路が景観計画に定める景観ゾーン・景観拠点・景観軸のどこに該当しているかを確認し、その方針を踏まえた景観整備の構想等を立てる。

### ✓ チェック 2 周辺の景観に対する影響を検討しているか？

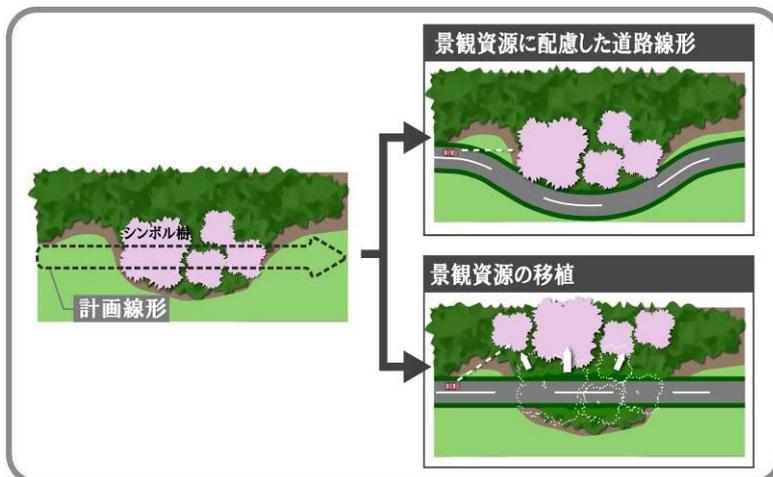
#### 道路線形

- ① 周辺の景観に大きな影響を与えない道路線形や断面構成などを検討する。
  - 道路線形は、景観や周辺環境への影響のほか、安全性や経済性等とのバランスを十分検討し、できるだけ既存の地形になじむよう工夫する。



#### 景観資源

- ② 計画地やその周辺に保全または活用すべき眺めや景観資源があるかを確認する。
  - 道路の新設及び改修では、地域住民から愛着をもたれている景観資源を積極的に保全し、地域の特徴的な景観を継承するよう努める。また、やむを得ず撤去しなければならない場合においても移植・活用等ができないか検討する。



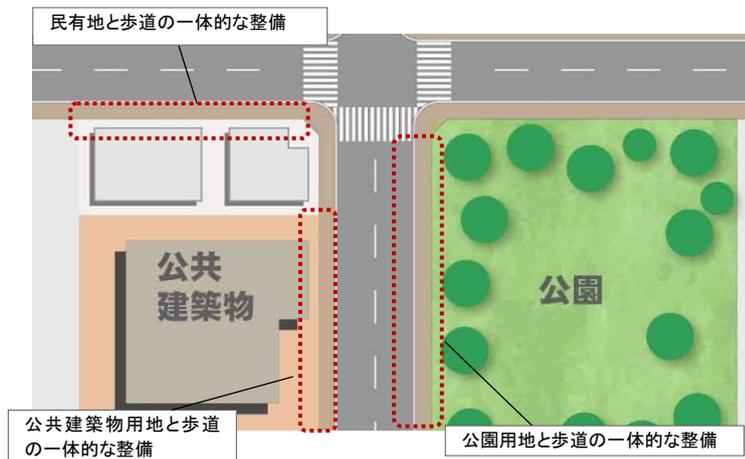
### ✓ チェック 3

隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか？

#### ゆとり・快適スペース

① ゆとりを感じさせる景観を形成するために、道路と接する他の公共施設や民有地との一体的な整備や連携を検討する。

- 道路を改修する場合は、歩道幅員をできるだけ広く確保できるよう検討し、隣接地の一部が歩道化された場合も舗装仕様の調和などを工夫する。



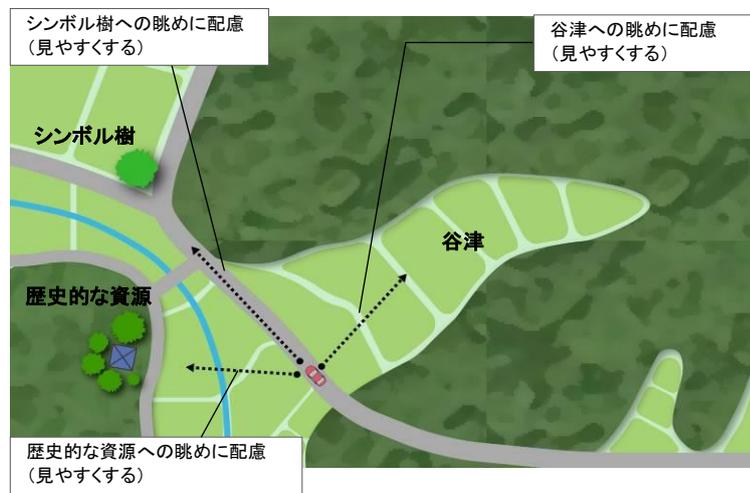
▲ 歩道と公園の境界部を一体的に整備し、かつ舗装もそろえることで、ゆとりのある景観づくりに役立っている。【①】



▲ 民有地と歩道の舗装材をそろえて一体的な歩行空間が創出されている。【①】

#### 良好な景観の保全

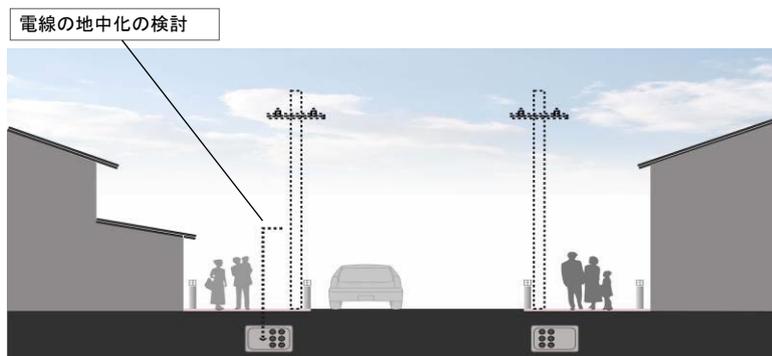
② 地域の特徴的な景観が得られる場所では、その良好な景観を確保するために、快適なスペースの確保や各種の要素の適切な配置を検討する。



▲ シンボルとなる樹木がある場合は、見通しを阻害しないような付帯施設等の配置を心がける。【②】

#### 電線・電柱地中化

③ 景観上特に重要な役割を果たしている幹線道路や駅前等では、電線・電柱の関係機関との連携を図りながら地中化を検討する。



▲ 電線地中化により、広がりを感じられる景観形成が図られている。【③】

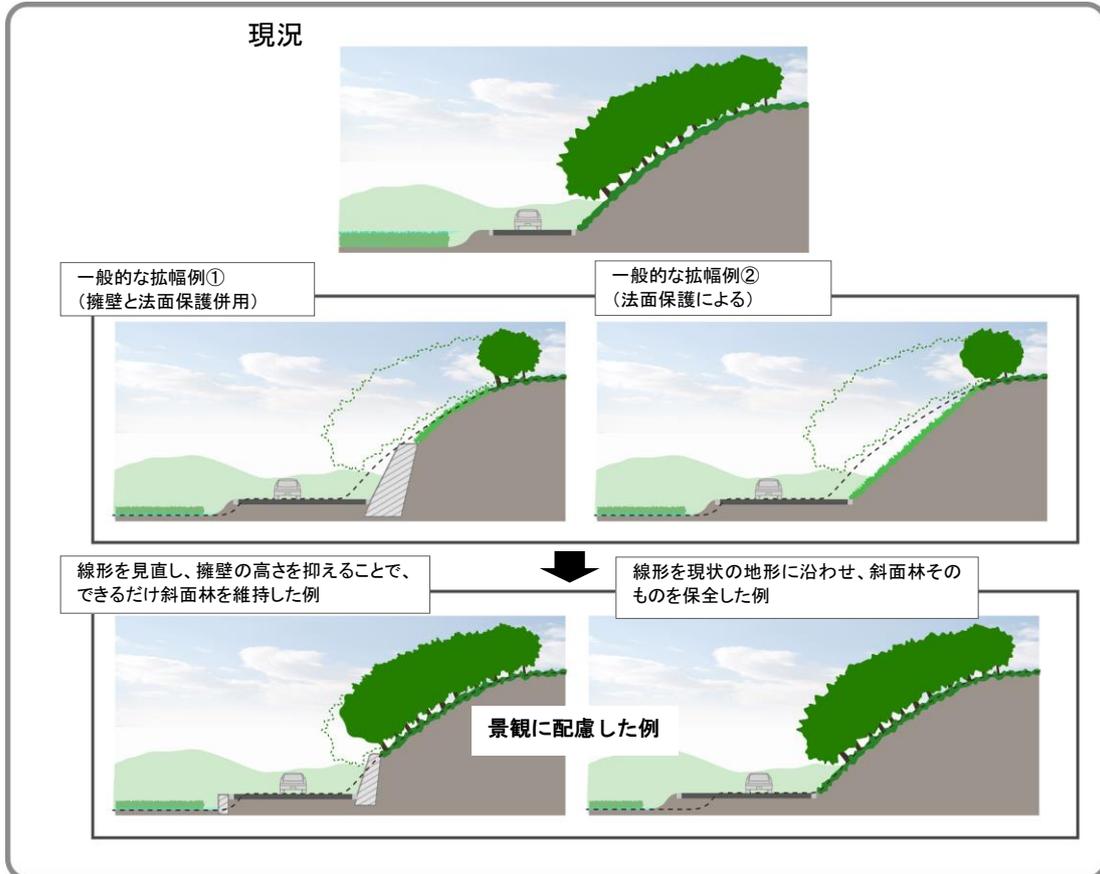
方針① 周辺の景観に与える影響を抑えるため、地形の改変は最小限とする。

√ チェック 1 周囲からの見え方に配慮した道路計画を行っているか？

景観資源

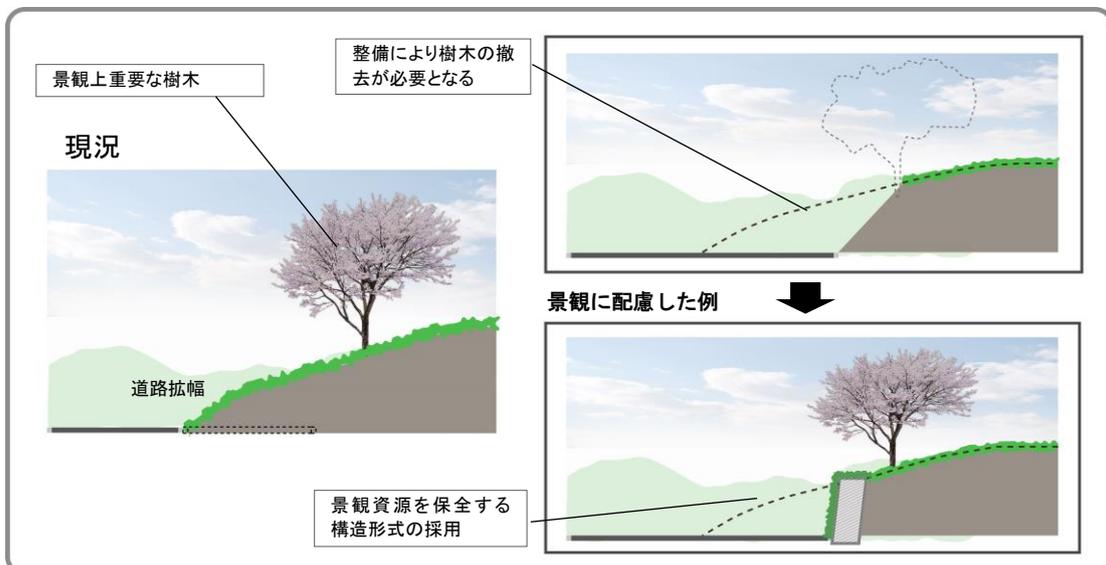
① 計画する道路が周囲の景観に与える影響を考慮し、設計や構造等を工夫することにより、斜面林や景観資源の保全等を図る。

■道路を拡幅する場合の斜面林の保全例



② 良好な景観資源の保全を図るため、擁壁の位置や構造形式を検討する。

■道路を拡幅する場合の景観資源の保全例



## 方針②

擁壁や法面は、周辺の景観に配慮し、圧迫感や違和感を与えないよう努める。

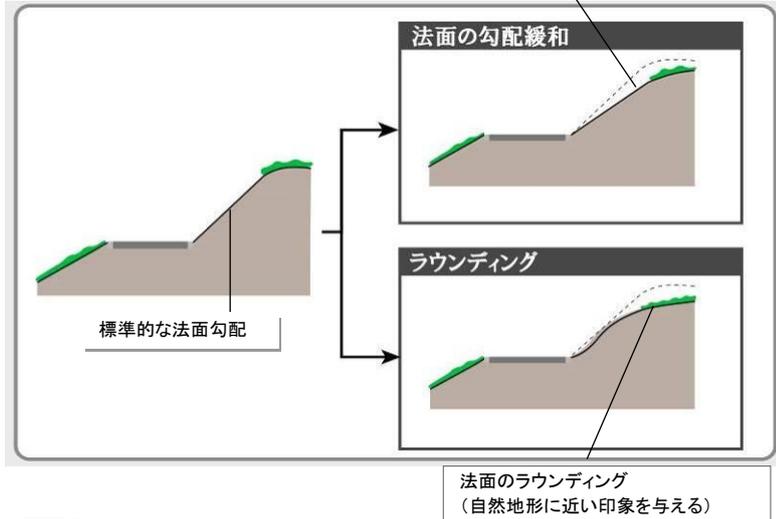
### ✓ チェック 1

圧迫感や人工的な印象を軽減する手法を検討しているか？

#### 法面処理

- ① 法面の整形ではできるだけ法面勾配を緩和し、通行者等が安心感を得られるよう努める。また、切土・盛土等の土工処理を行う際には、自然な地形をイメージできるようにラウンディング等の処理を検討する。

#### ■ 圧迫感や人工的な印象の軽減手法



▲ 圧迫感のない緩やかな勾配の法面仕上げとなっている。【①】



▲ 切り土のラウンディングを行い、地形になじませる工夫がされている。【①】

(引用：「北海道道路デザインブック(案)」/H22(独)土木研究所 寒地土木研究所)

#### MEMO

#### ■ ラウンディングの種類

ラウンディングには、断面的な土工処理として「ショルダーラウンディング」、「のり尻のラウンディング」、「クレストラウンディング」等があります。

(引用：「北海道道路デザインブック(案)」/H22(独)土木研究所 寒地土木研究所)

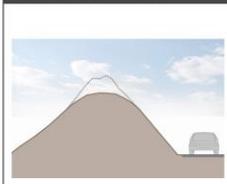
#### ショルダーラウンディング



#### のり尻のラウンディング



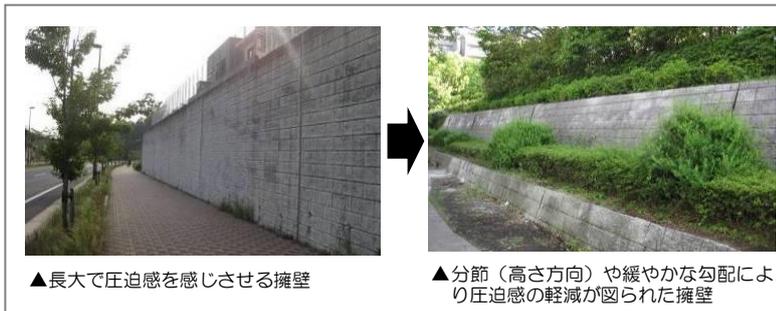
#### クレストラウンディング



#### 圧迫感の軽減

- ② 長大な擁壁は通行者等に圧迫感や威圧感を与えるため、高さの分節やセットバックなどの工夫により、圧迫感の軽減に努める。

➢ 崖地や急傾斜地においては、現況の地形や樹木等を活かし、長大な擁壁・法面を生じさせないよう努める。



▲ 長い擁壁面について、分節化やスリット、連続する曲線のデザインが工夫され、壁面の単調さや圧迫感の軽減が図られている。【②】

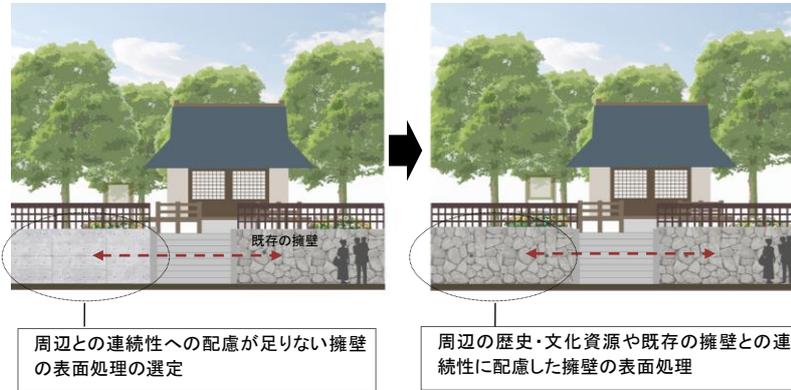


▲ 擁壁をセットバックし、そのスペースに植栽を施すことにより圧迫感の軽減が図られている。【②】

✓ チェック 2 表面処理や素材の選定について工夫しているか？

表面処理

①擁壁等の構造物は、長大で単調な面を生じやすいため、周囲と調和した素材や仕上げとする。



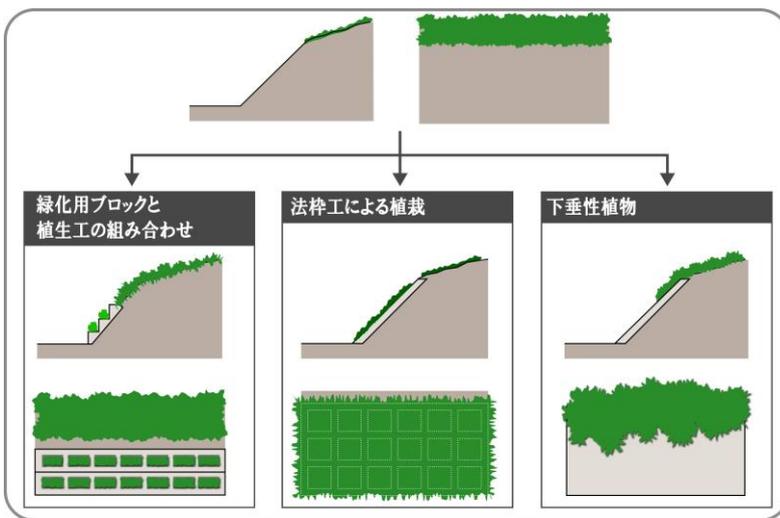
▲自然素材が使用され、周辺の環境と調和した擁壁となっている。【①】



▲旧街道への配慮を感じさせる石張りによる表面仕上げとなっている。【①】

表面緑化

②擁壁や法枠等の土留構造物は人工的な印象を与えやすいため、周辺の植生との調和に配慮し、積極的な緑化に努める。



▲石積み擁壁の高さを分節し、一部緑化を施すことで圧迫感の軽減が図られている。【②】



▲ボリューム感のある緑で擁壁を感じさせない工夫をしている。【②】

▲擁壁と緑で被うことで壁面緑化の様な印象を受け、魅力的な要素となっている。【②】



▲法面のボリュームのある緑化により潤いづくりがされている。【②】

### 方針③

市街地では、歩行者が魅力を感じられるよう工夫する。

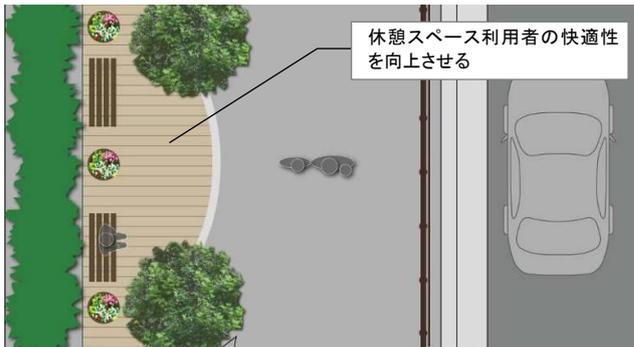
#### ✓ チェック 1

歩行者空間は、ゆとりの確保やおもてなしの表情づくりに配慮しているか？

#### 休憩スペース

①安心して休憩できる空間とあわせて効果的にベンチを設置することは、歩行者を歓迎する表現となるため、積極的に取り入れる。

- ▶ ベンチ等の休憩施設を設ける場合は、休憩スペースの領域の確保や、境界部の植込み等により、休憩施設利用者の快適性が確保されることで利用されやすくなる。また、ベンチに座った際に見えるものや、視野の広がり確保にも配慮することが望ましい。



▲快適な休憩スペースとするために、ベンチの周りに緑が設けられている。【①】



▲ベンチで安心して休憩できるよう、そのスペースと歩行者空間の領域が確保されている。【①】



▲歩行空間を邪魔しないよう工夫してベンチを設置し、憩いの場が提供されている。【①】

#### 舗装

②舗装材は、場所（市街地、郊外、景勝地等）に応じて素材の質感や面の大きさ、形態、色彩などを選定する。

- ▶ 舗装パターンデザインは、図面だけで決定せず、歩行者の視点から見た実際のスケールを想定したデザインとする。
- ▶ 商業地等では、おもてなしの表情づくりを図るため、単調な印象とならないように色彩やデザインを工夫する。
- ▶ 舗装材は歩行のしやすさと関係が深いことから、その選定にあたっては滑りにくい素材や耐久性、汎用性のある素材を選定するとともに、周辺環境と調和した色彩の舗装材を選定する。
- ▶ 通常のアスファルト舗装でも十分周辺環境になじみ、好ましい印象になることも多いため、デザインの選択肢とする。

(引用：「景観工学」/H21 日本まちづくり協会)



▲狭い路地ではあるが、スケール感が考慮された丁寧な舗装デザインにより、おもてなしが感じられる。【②】



▲1つの形と濃淡2色の舗装材であるが、貼付け方向の工夫と仕上がりの丁寧さが感じられる。【②】



▲アスファルト舗装の一部に石畳を設けた例。経済性と良好な景観を両立している。【②】



▲舗装の色が周辺から浮き出たままになっている。また、誘導ブロックと舗装との輝度差が十分確保されていない。



▲個々の舗装材の色合いをそろえることで全体的にまとまりのある舗装となっている。また、誘導ブロックと舗装との輝度差が確保されている。



▲旧街道の歴史的な趣と石張り及び土系舗装との調和が感じられる。【②】

### 夜間演出

- ③夜間景観を演出することは、おもてなしの表情づくりにつながるため、特に景観上重要な場所では照明等のデザインや配置を工夫する。

フットライト等の歩道照明を設置し、夜間における安全性を確保するとともに、夜間景観の演出を図る

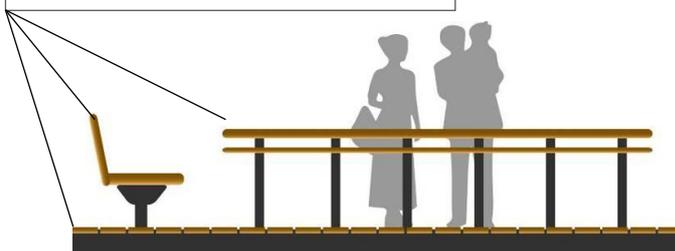


▲街路灯により温かみのある雰囲気が出されている。【③】

### 素材選定

- ④特に景観上重要な場所の舗装面やベンチ、柵などには、おもてなしの表情づくりに効果的な自然素材を積極的に活用する。

手すり部やベンチ、舗装等に木材の活用を図る



▲木材は人々を歓迎する意図を表現しやすく、歩行者に心地よい印象を与える。【④】



▲植栽帯の壁面に照明施設を配置し、安全性と夜間景観の演出が両立されている。【⑤】



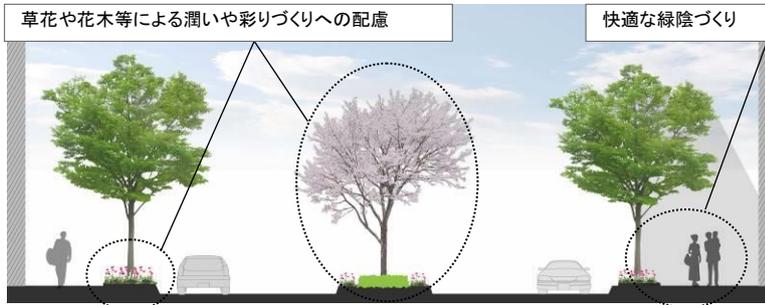
鉄道跡地を示す

▲鉄道跡地に線路と木材を活かした舗装により、当時の面影が感じられる。【④】

## ✓ チェック 2 緑を魅力づくりに活かしているか？

### 彩り・緑陰づくり

- ① 新緑や開花、紅葉など、歩行者に四季の変化や安らぎを与える樹木、草花の植栽に努める。



▲桜並木が通行者に対して春を感じさせる。【①】

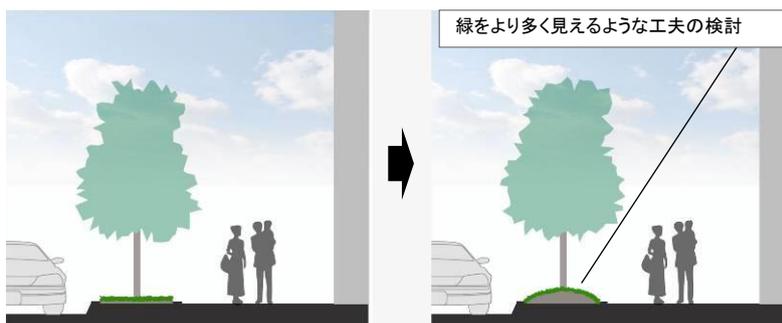


▲四季の草花を植栽し、通る人を歓迎している



▲イチョウ並木が通行者に対して秋を感じさせる。【①】

- 植樹帯や植栽柵を設ける場合は、盛土を行うなど、地形をつくることにより緑をより多く見せるような工夫ができないか検討する。



▲街路樹ののびやかな樹形が緑陰を形成して、快適な道路景観をつくり出している。【①】



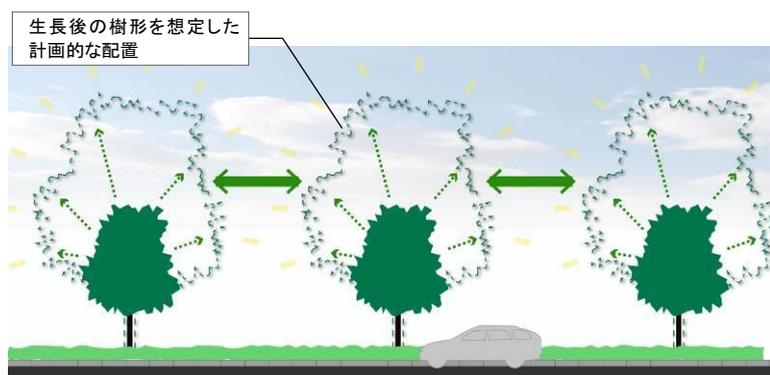
▲緑を立体的にみせることで緑視量が多く感じられるよう工夫している。【①】



▲低い位置にある効果的な植栽や、足元を照らす照明など、歩行者への気遣いが感じられる。【①】

## 計画的な植栽

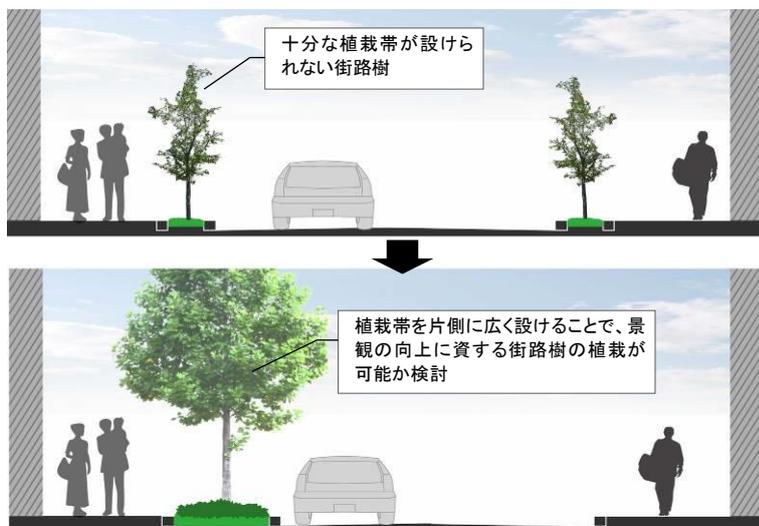
② 街路樹を植栽する場合は、樹木の生長を考慮した計画的な配置を行う。



▲ ほどよい間隔と大きさの並木が都市にゆとりと潤いを与えている。【㊟】

③ 道路規模に応じた街路樹の配置や樹種・樹形の工夫を行う。

- ▶ 植栽帯にこだわらず、道路幅員や道路の性格により、片側だけに植栽帯を設ける方法や、シンボルツリーを設ける方法、またはあえて植栽帯を設けないことも検討する。



▲ 樹形が整えられえた高木が場のアクセントとなっている。【㊟】



▲ 道路幅員が広く十分な植栽帯を確保できることから、景観に資する街路樹を植栽している。【㊟】



▲ 街路樹ではなく、プランターを配置している例。来訪者を歓迎する意図が感じられる。【㊟】



▲ 連続した街路樹はなく、シンボルツリーを植樹している。参道の途中の目印でもあり、良好な空間も生んでいる。【㊟】



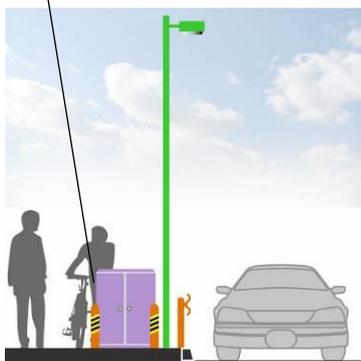
### ✓ チェック 3

道路付帯施設（道路付属物及び占用物）は、周辺の良い景観や他の付帯施設との調和に配慮しているか？

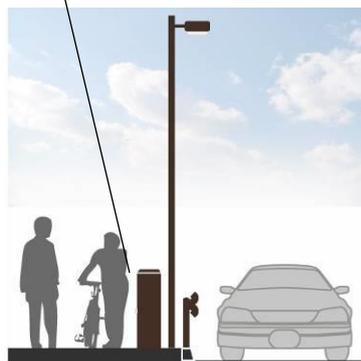
#### 道路付帯施設（配置）

- ①道路付帯施設は、歩行者の動線を阻害しない配置に努めるとともに、周辺の街並みや自然環境と調和する素材等を選定する。

通行を阻害し、色彩が過度に目立ち不調和となっている



動線を阻害しない配置や、それぞれの道路付帯施設の調和を図る

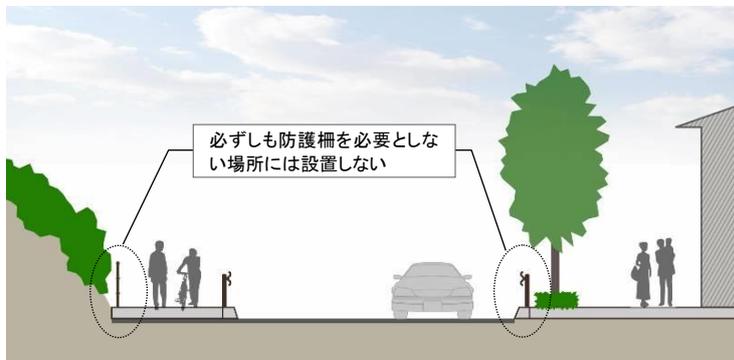


▲ポストや案内板をベンチの脇に配置し、歩行者の妨げにならないよう配慮し、色彩も統一されている。【①】

#### 道路付帯施設（設置）

- ②道路付帯施設の機能が必ずしも求められない場所では、交通上の安全性を検証した上で、その設置を控える。

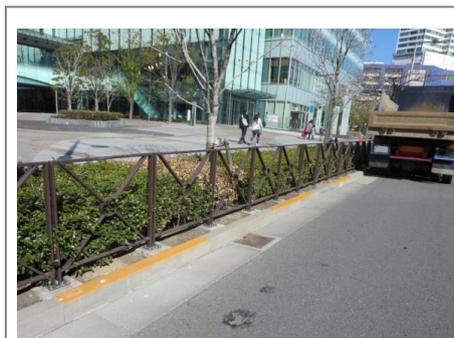
（引用：「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」/H16 国土交通省）



▲分電盤等が通行を阻害している。【①】



▲分電盤等の集約と通行を阻害しない配置の工夫がされている。【①】

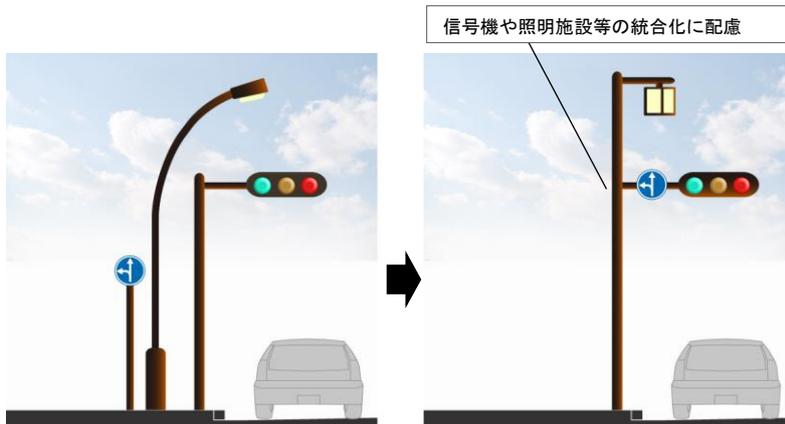


▲植栽帯で横断防止や安全性が確保される場合は、本防護柵は過度な設置となる。【②】



道路付帯施設(統合化)

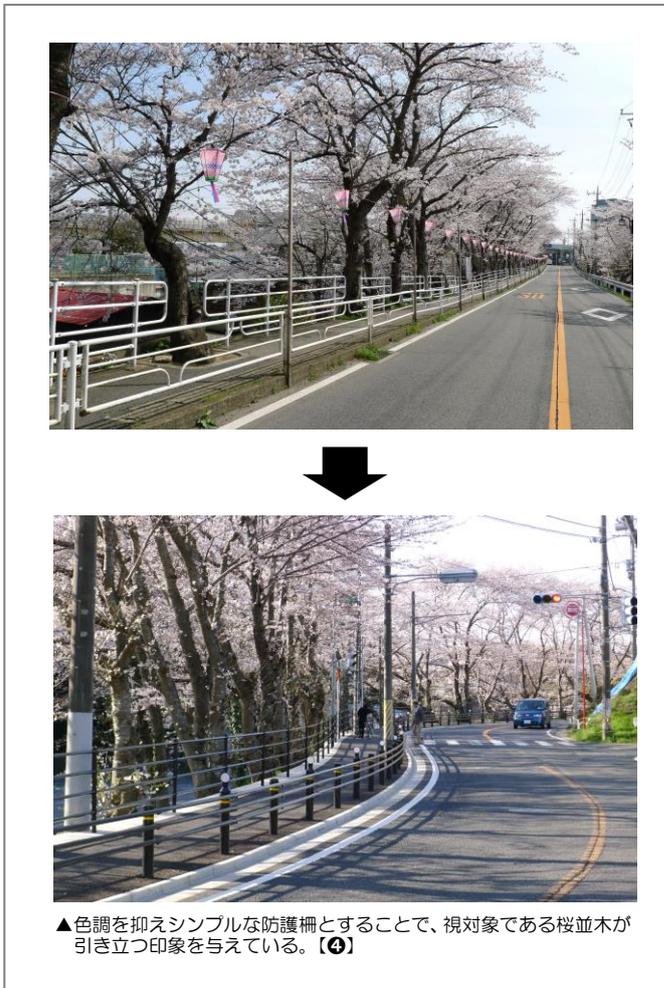
③ 信号機や標識類、照明施設類は、共架等の工夫により、見た目の煩雑さを軽減する。



▲信号機と照明灯を一体化した例。【③】

道路付帯施設(形態・意匠)

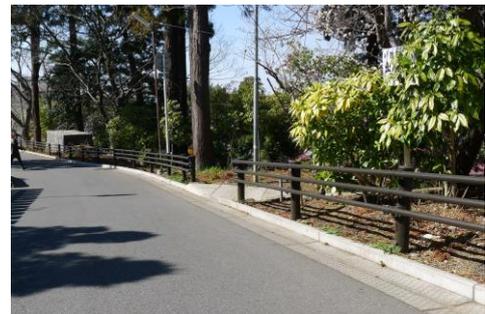
④ 道路付帯施設は、周辺から浮き出してしまうような色彩や形態・意匠を避ける。



▲色調を抑えシンプルな防護柵とすることで、視対象である桜並木が引き立つ印象を与えている。【④】



▲歴史ある街中の旧道。周辺景観を考慮した車道用防護柵が良く似合っている。【④】

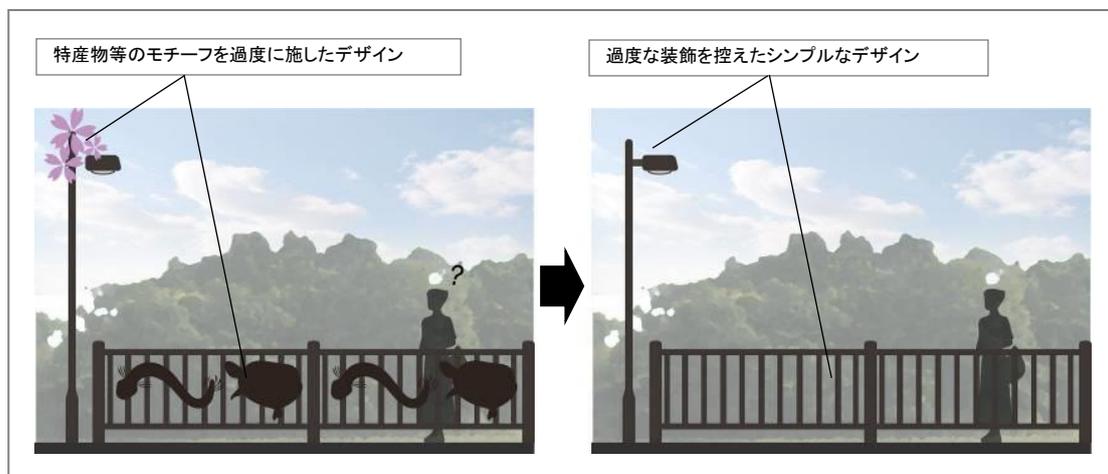


▲社寺に隣接する公道。落ち着いたシンプルな防護柵が周辺に調和している。【④】



▲参道の街並みに調和するよう、ポラードやベンチ、街灯のデザイン、素材が配慮されている。【④】

- ▶ 照明灯などに、本来有する機能と無関係なデザインを採用すると、不自然な印象となりやすいため、地域特性を取り入れたデザインとする際には十分な検討が必要となる。



▲シンプルなデザインの街灯に、ハンギングによる修景を行っている。植栽帯の花と共に、おもてなしの表情がよく表現されている。  
また、防護柵のデザインも統一されている。【④】



▲街灯と車止めをシンプルなデザインで統一し、周辺景観に融和させている。【④】



▲干支の動物をモチーフにしたポラード。道路の機能とは無関係なデザインだが、素材や色を車止めと合わせ、歩行者の視界を阻害していないため、周辺と調和している。【④】

## 交差点・駅前

⑤ 橋梁や道路付帯施設等が集中し、煩雑な印象を与えやすい交差点や駅前では、配置やデザインを工夫し全体の調和を図る。

(引用：「道路デザイン指針(案)」/H17 国土交通省)

➢ 沿道特性や周辺の景観特性を踏まえ、形態・意匠、色彩の統一や道路付帯施設の集約に努める。



▲交差点の防護柵や照明灯、車止め、舗装の形態・意匠、色彩に統一性がなく全体として煩雑な印象を与えている。



▲駅前の付帯施設のデザインが統一されてすっきりとした印象を与えている。【⑤】



▲道路付帯施設の集約や形態・意匠、色彩が統一され、全体としてまとまりのある空間が形成されている。



▲統合化された信号柱、歩道と合わせた車止めのデザインなど、交差点全体として、まとまりのある印象を与えている。【⑤】

## 案内標識

⑥ 案内標識を複数設置する場合は、煩雑さを軽減するため集約化を図る。

➢ 集約化を図る際には、ピクトグラムや多言語、誘導サイン等を活用することで、わかりやすい表示となるよう努める。



▲広域地図や周辺地図、観光案内情報を集約した分かりやすい案内板を設置している。【⑥】



▲周辺の広域地図や音声案内、誘導サイン、多言語による分かりやすい案内板を設置している。【⑥】



▲落ち着いた色彩を基調とした誘導サインに、ピクトグラムや多言語による分かりやすい表示としている。【⑥】

## 方針④

道路が良好な視点となる場合は、景観への影響を最小限に抑えるよう、道路構造物、占用工作物の配置、形態・意匠及び色彩を工夫する。

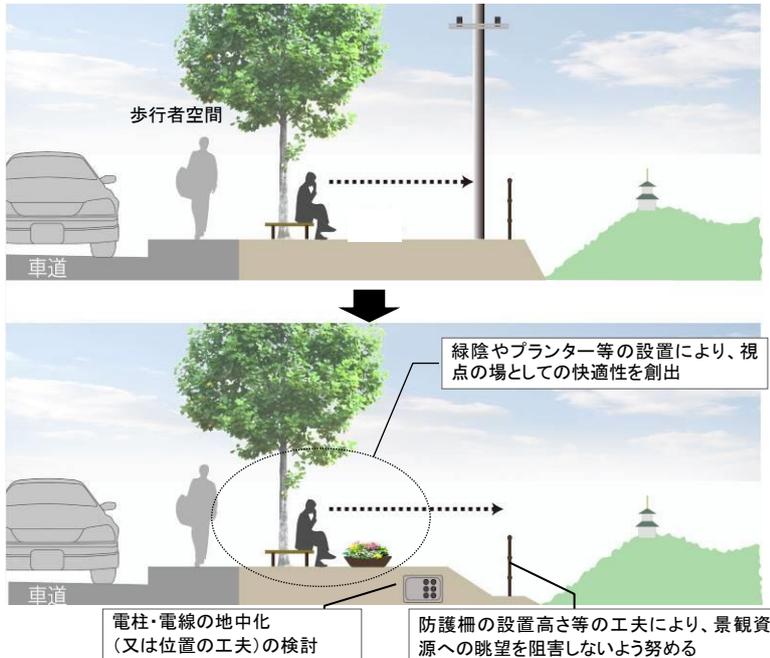
### ✓ チェック 1

道路施設等は、視対象を見やすくするよう配慮しているか？

#### 眺望の確保

①歩行者等の視点の場においては、眺めを阻害しないよう、道路付帯施設（街路灯、防護柵等）や道路占用物（電柱等）を適切に配置する。

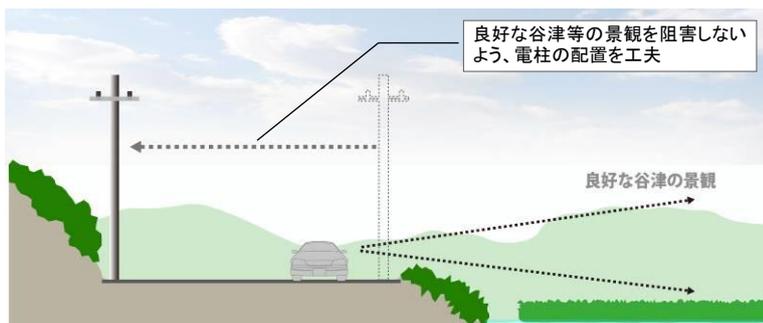
- ▶ベンチ等が設置されている場合は、座った状態で視対象を眺められるよう、電線の地中化や防護柵の設置の工夫に努める。



▲飛行機を眺めることができる展望施設として整備されているが、隣接する道路の占用物が眺めを阻害している。【❶】



②沿道から良好な景観が望める場所では、道路付帯施設や道路占用物が眺望を阻害しないよう高さや配置、色彩を工夫する。



▲お堀（視対象）沿い歩道のゆとりスペースにベンチが設けられ、くつろぎながら眺望を楽しむことができる視点の場となっている。【❶】



▲水田等への開放的な眺望を阻害しないよう、反対側に電柱を配置している。【❷】



▲正面の開放的な眺めが特徴。電柱等を設置する際は、左側を避けるなどの配慮が欲しい。【❷】



▲谷津への眺望を防護柵の色が阻害している。



▲谷津への眺望を阻害しない道路付帯施設の色彩となっている。



▲田園景観が見やすい状態であるため、白く強調されたガードレールも景観に大きく影響しない。【㊟】



▲視対象である正面の松を効果的に見せるには、工作物の配置や色に工夫が必要である。【㊟】



▲視認性の高い白いガードレールが道路の輪郭を形成し、視対象としての道路景観を構成している。【㊟】



▲暗い色彩の防護柵は、一般的に景色に溶け込みやすい。【㊟】